

新しきクリエーター

美の小箱

文・増田 洋

（美術評論家）

人口の移動が盛んな今日の状況下では、県内へ移転してくる人、県外へ転出していく人の流れは活発だ。美術展を訪ねると、思ひがけない人が、いま、県内で活動していることを知る。美術界はきわめて流動している。

昨秋、西宮市民ギャラリーで、神戸独立美術展が、本当に久しぶりに開かれた。その会場で、私は、木津文哉を初めて見知ったのである。第二十回以後の安井賞候補展は欠かさず見ていているから、木津文哉が同展に出品したことは記憶にあつた。しかし、関東在住であると思っていたから、神戸独立美術展に参加していることに、一寸おどろいたのであつた。

一口で木津文哉の絵を言い表わすなら、描き表わす行為と情熱が凝然として結晶したという感じがする。構図を考える構えが大きいからだろう。そして独自の混合技法の効果は、作品を重厚なたずまいのものにしているのである。押して押してまた押すというような感じがする。神戸独立美術展で見た木津文哉の作品は現代青年像であつた。描かれた画中の青年のファッショニズムは、きわめて今日風である。そこには、他では見ることができない今日の青春像の息吹きがある。同時代の仲間たちの生活感覚に根ざしている木津文哉の造形の手触りは、年輩者である私にとり、まことに新鮮に感じられる魅力である。



広場-3
(1989年)

木津 文哉



- 1983年 東京芸術大学絵画科卒業
- 1984年 独立美術展出品(以後出品)
- 1985年 東京芸術大学・院終了
東京セントラル美術館油絵大賞展(佳作賞受賞)
銀座スルガ台画廊個展(以後毎年個展開催)
- 1986年 第6回富嶽文化賞展(奨励賞受賞)
銀座ギャラリー21個展
- 1987年 玉屋画廊個展(イメージオンペーパー展)
- 1988年 第31回安井賞出品
浜松私のイメージ展
第8回富嶽文化賞展(賞候補)
- 1989年 梅田グランドギャラリー個展
他グリープ展、コンクール多数出品



やったー！ 神鋼 V₂



写真左 / 止まらない止められない神鋼重戦車 写真上 / 優勝カップを受け取る喜びの平尾主将

史上最多の58得点で早大を粉碎

神鋼無敵のV2——1月15日東京国立競技場に62,000人の大観衆を集めて行われた第27回ラグビー日本選手権で、社会人代表の神戸製鋼が学生代表の早稲田大学を58-4の大差で下し、2年連続2回目の日本一に輝いた。

戦前から有利を伝えられていた神鋼だが、FW戦で早大を圧倒。パックスも自在の展開を見せ8トライを奪うなど攻守にわたって実力の違いを見せつけた試合だった。

もはや国内においては無敵ともいえる神鋼ファイフティーンだが、新日鉄釜石のもつ6連覇の大記録を目指して、更なる飛躍を期待したい。



最高の日にしてあげる。

プレゼント選びは、年々難しくなるけれど。
彼の喜ぶ顔を思い浮かべあれこれ迷うのも楽しい。
誕生日やクリスマスとは、また別の心を込めた贈りもの。
バレンタインの準備も、いいよ日本番です。



とておきのスイートな味をどうぞ。

- ジョリカセット
バレンタインケーキ 2,000円
(予約受け付け: 2月10日(土)まで)
地1階洋菓子売場



くつろぎのひとときは、このマグカップで。

- イニシャル マグカップ 1,200円
(2月27日(日)まで)
5階暮らしのコア



楽しい時が過ごせるといいですね。

- 時計(グリーン・レッド) 11,800円
大丸浜側住友生命ビル1階「クリークス」

を込めて。

100ml) ... 950円(税込み)



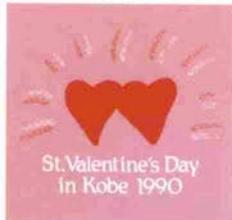
れる人だから。
ん(100g) 450円
..... 3,500円
..... 1,200円
バス・シャワー



DAIMARU KOBE
電話(078)331-8121

1~4階・地1階は7時まで営業
5階~屋上・地2階は6時30分まで営業

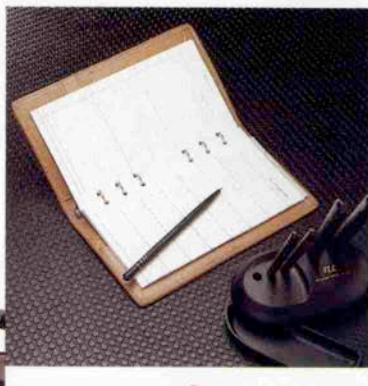
2人っきりのバレンタイン



2人にとって最高の日、2月14日水バレンタインデー。
大丸神戸店は、水曜日ですが特別営業。

デートの約束も忘れないでね。

- ランセル
システムノート 15,000円
ステーショナリーセット 5,000円
6階ステーショナリーコーナー



洗練されたカジュアルを目指す彼に。

- ポール・スミス
バッグ 58,000円
4階ギャレリアウオモ



●表示価格の3%を消費税として別途頂だいいたします。



足もとにも気を配ってほしいから。

- ケンゾー
ソックス(4色) 各1,500円
4階紳士くつ下売場



バレンタインに思い
●サントリー
ブランデー V.S.O.P
地1階洋酒売場

とても、清潔感あふ
●ひげそり用粉石け
シェービングブラシ
シェービングカップ
5階コンフォートシーン

こんなに、神戸です。



嘉納毅六會長



川瀬喜代子会長

菊正宗酒造の嘉納会長がにんじんをむら珈琲御影店フレンドサロンへ。菊正宗の宮水で抽出する「ヒーヒー」が神戸つ子に親しまれて38年。川瀬喜代子会長と宮水談議です。川瀬 今日、会長にお逢いした
ら、この38年間頂戴致し、コーヒーを出すことが出来る事をヒーヒーにお礼申したいと思つております。番にまし
ました。有難う存じます。嘉納 いやいや、私は以前から

靈感から生まれた宮水珈琲

●にしむら珈琲文庫／嘉納毅六氏（菊正宗酒造）を迎えた

菊正宗著
会長

造

川瀬 もう40年近く前の事、家族で六甲へキャンプに行きました。朝小川のせせらぎで入れたコーヒーの美味しい事！この味をお客様に…との思いが強烈でした。コーヒー粉もクリーミーでも店で使用している同じ物、違うのは水だけです。毎日六甲へ水を汲みに上がる訳にもいかずつと、何故コーヒーを入れるのに宮水を使うことを思いつかれたのかをお伺いしたくて…。

と思ひ悩んでゐる所、お客様の中に水の研究家がおられ、六甲の花崗岩層を通つて流れ込んでゐる所が宮水地帯で此所の水が最高と聞き、飛び込んだ所が菊正宗さんの宮水井戸でした。以降38年間ずっと御好意に甘えて



この樽で運ばれる宮水がおいしい珈琲の秘密

嘉納 宮水に目を付けたのは正に靈感ですね。靈感によつて發見してチヤレンジしたわけですね。素晴らしいことです。宮水は六甲の流れが海からの塩分を含んだ水と混ざり合つたミネラルの多い硬水です。これは酒造りにも重要で、硬水を使うと発酵が旺盛になり、出来たてより、秋まで待つて熟成させた美味しい酒が出来るんですよ。

川瀬 はい。珈琲豆も培煎してからのお味が大切なのですが、培煎した直後の豆は味が物足りなく、24時間ねかせた豆が一番美味しいコクが出ます。お酒も水やねかせ方で味が決まつてしまふデリケートなものなんですね。菊の季節に美味しくいただけるなんて素敵ですね。

嘉納 神戸は「グルメの街」と言われていますが、若者を対照にするばかりではなく本物のグルメが育つ街でありたいですね。

川瀬 私も、より美味しいコーヒーと頑張ってきましたが、なんの紹介もなく遊び込ました私共に宮水の使用を許可して頂き見守つて下さったからこそだと心より感謝しています。



にしむら珈琲御影店

TEL 078.854.2105
8:00AM~10:30PM 無休 駐車場50台完備

今宵、街中 *Lovely-Douche*



KINOSHITA
PEARL
CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 無休

東京 / 赤坂・銀座・青山 大阪 / 心斎橋



Grass Spin-
作・松本 薫

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

2月号目次 ● 1990 • No. 3 4 6

- 表紙／（故）小磯良平
セカンドカバー／西村功
11 神戸っ子'90／成瀬香泉・竹山清明
14 ある集い／アメリカンフットボールチーム・モンスター
日本バーテンダー協会神戸支部
17 コウペスナップ／新年名刺交換会・シャガール展
18 美の小箱／文・増田洋 絵・木津文哉
20 スポーツコラム－V2達成／神戸製鋼ラグビー部
31 私の意見／八馬望
33 隨想四題／小林政夫・村上三郎・羽多悦子・堀尾貞治
36 地域文化論／水谷耕介
38 連載エッセイ／田中千佳 絵・西村功
42 珍珠飲みながら／溝田弘美（工ドモンズ大学日本校）
44 経済ポケットジャーナル
46 酒特集（I）神戸酒徒座談会／石阪春生・下村光治・筒井康隆
内藤国雄・望月美佐
54 酒特集（II）神戸酒徒番附選考座談会（経済人）
神戸酒徒番附選考座談会（文化人）
58 平成二年神戸酒徒番付発表
60 酒特集（III）酒五郷酒情報—銘酒ここにあり—
64 酒特集（IV）酒五郷酒藏地図
66 話題のひろば／国際親善バーティ・（故）小磯良平伯1周忌
68 キャンペーン座談会／神戸百店会ニーリーダー
新谷秀紀・東中弘吉・菊水章矩・浅木幸雄・柴田啓輔
松谷年郎・大島智恵・永田耕一
74 ファッションウォッチング／大丸神戸店ブライダルサロン
ブライダルマーザ鰐尾アヤ子さんを訪ねて
76 ファッションスポット
84 神戸のお麻さん／井上三和子・齋井律子
103 孟さんの兵庫ウォーク／高橋 孟
113 コーヒーブレイク
114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史（6）／亀井一成
117 神戸の集いから／元定正屋・七人の陶芸家展／田波克巳展
118 座談会／スポーツ都市KOBEへの提言（グリーンスタジアムへ望む）
Mr. キャンバネラ・小山乃里子・浦長瀬稔・高橋 孟
122 ふたたびプロフェサーPの研究室／岡田 淳
124 KPSニュース
130 有馬歳時記／有馬グランドホテルに茶室棟「雅中庵」オープン
134 神戸を福祉の街に／橋本明
136 神戸百店会だより
138 モダンカルチャー
140 シネマ試写室／ファミリー・ビジネス・淀川長治
142 びっといん
144 ポケットジャーナル
148 おはるたーじゅ神戸／有馬ヘルスセンターの麗人 文・有井基
151 神戸っ子俱楽部会員情報
152 連載小説／神戸文学賞受賞作・風車の音はいらない
文・上田三洋子 絵・小西保文
174 “ちょっとたたずんで”一街角の花-1 プロローグ・スズカケ
室井 純
176 海船港／インランドシー号瀬戸内海を行く 文・かどもと みのる
目次作品一松本薫
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田薰志

受贈記念特別展

小磯良平展

—いま、ベールをぬぐ小磯芸術—

’90年2月10日土～3月25日日

開館時間／午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日／2月曜日（2月12日は開館）
入館料／一般300円・大學生200円・3月22日（木）
高大生200円（150円）
（）は30名以上の団体料金です。小中生150円（100円）



母子像 1954

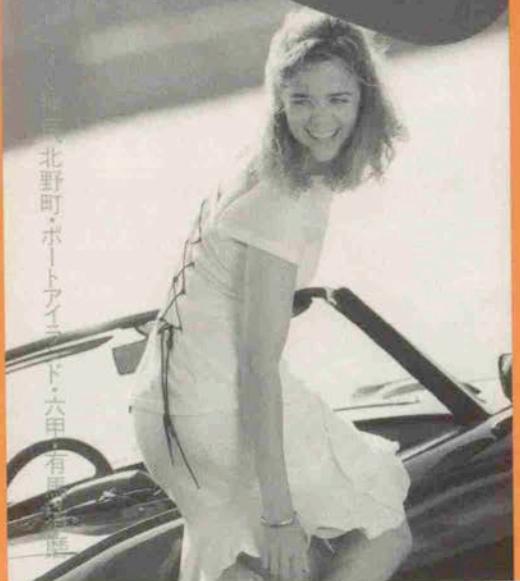
 神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24番地 ☎ (078) 391-0035

コウベ徹底ガイド

神戸&神戸

1990



神戸のエスプリを徹底ガイド

神戸のガイドブックはたくさんあるけれど、これは神戸が大好きな神戸っ子がつくった手作りの本。素敵な何かにめぐり逢えそうな神戸の風景が、この1冊にぎっしり詰まっています。

神戸の魅力を全国にアッピール

（タウンガイド）

三宮／ポートアイランド／北野／トアロード／大丸前／元町／六甲・御影・岡本／神戸・兵庫・長田／須磨・舞子・垂水・明石／芦屋・西宮・甲子園／有馬／六甲／宝塚

好評発売中 500円(税込)

Spring Collection



FASHION PARK

メリーヒル
ゲルラン
ボンファヤ
シス
ルーブル・
ブライダルサロン

ダイアナ
オフ
クロードレマ
タカノ
ココ山岡
三愛

キャンディッド・マス
メイソングレー
フォーセット
ペネット
ラッキーズ
ハニーハウス
イーストポーリ
靴ト屋
フェアリー
ザンバ
リップスター
ペイトンブレイス
ヴィフ
バルチザン
クレヨン
マークリント

アラブグレッツ
トゥエンティワン
ミュー・エタム
Aug
リーフノット
アトモスフェール
ヴィッキー[®]
カボ
キヤトルセゾン
ハウスオブローディ
花王ソフィーナ
ワコール
トリンド
ラバブル
ミセラン
シエル

神戸・三宮、さんプラザ2・3F
センタープラザ F
営業時間 am 11:00—pm 8:00
PHONE — 078 · 332 · 1698



2月14日は大切な想い出のトページ

植村社長の友人、横山幹夫・るみ子さん御夫妻

POLO ポロシャツ ¥ 9,800
トレーナー ¥14,000



HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651
SANNOMIYA MAC
THE BLAZER SHOP MAC
DOLCE MAC
FESTA MAC
BENETTON MAC
FUJIIDAIMARU MAC
SUNVIOLA MAC
PLENTY MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
TOR-ROAD 078-391-0896
SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
KYOTO FUJIIDAIMARU 2F 075-211-0857
TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□わたしの意見

日本文化を担う

灘の酒

八馬 望

△灘五郷酒造組合理事長▽



平成二年のうららかな元旦の朝まだき時、私は夢の中に、昇りかかる朝日を目指して灘の酒を満載した「樽廻船」が雄々しく船出して行く姿に思わず諸手を挙げて萬歳を叫んだところで目を醒ました。

思えば三百年の伝統の中で、今日もなお脈々たる『本一の酒どころ灘五郷』の礎を築きあげてくれた先駆者の遺産をどのように守って行くべきか、灘五郷五十四社の組織をお預かりしている立場として改めて考えなくてはならないとの思いをこめて、新年の屠蘇をお祝いしたのであります。

神代の昔から日本酒は我々の生活と言うよりも、民俗文化とは切っても切れない関わりを持って来ましたことは、今さら多くを語る必要もないでしょう。

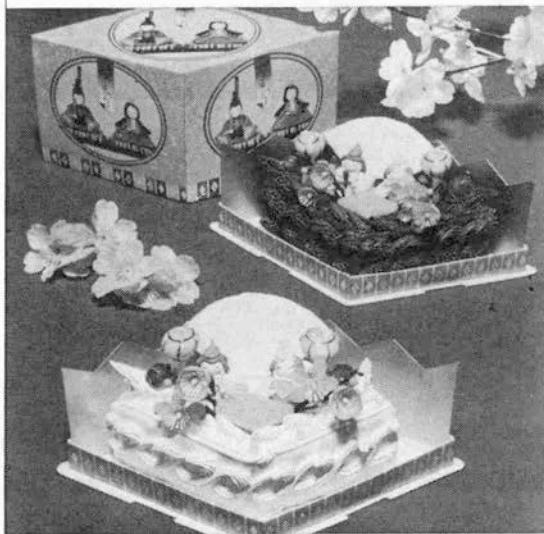
しかしながら、近代世相の中で、ややもすれば忘れがちに置き去られようとしているのも伝統文化ではないでしょうか。

今、私はここで伝統文化論をぶつ積りはありませんが、灘五郷酒造組合では昨年十月一日「酒の日」の前夜祭として、九月三十日夕闇迫る大阪駅前に林立するビル群の谷間の広場で「灘の酒新能」を催しましたところ、どうでしようか、数百人しか収容能力のない広場に、抽選で消費者の方々を招待申し上げたところ、「是非見たい。何とか入場出来ないか。」とのお問い合わせが如何に多かったことでしょう。お蔭様でレーザー光線に照らされた幽幻の世界がビルの谷間に出現しましたことで大成功を見ることが出来ました。数多くの人々が、伝統文化に郷愁を感じるよりも、むしろ、あこがれを持っておられる方々をつくづくと感じたのであります。

四季折り折りになせる日本の春夏秋冬はまさに世界に類を見ない文化の香りがあります。またそれぞれの文化と日本酒との繋りの深さも生き続けております。

三月三日はひな祭り

嬉しい、嬉しい
ひなまつりには
菱形デコレーションをどうぞ



- ★クリーム・チョコレート 小 ¥1200
- ★クリーム・チョコレート 大 ¥2000
- ★生クリーム 小 ¥1500
- ★ひなボックス 生 ¥1000

— 北 欧 の 銘 菓 —

ユーハイム・コンフェクト

KAKINUMA GALLERY



風のある午後
(油絵)
南 和恵
二紀会同人

うみかぜ
海風が坂道を通りぬけ、空気の水分が
太陽にかがやき美しい造形をつくって
います。暖かな日の午後のひとときの
色彩は、パステルカラー。

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)

芦屋柿沼産婦人科



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り
☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)
当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

隨想

四題



白川・堂東の石抱きかやの神木
(撮影中の小林政夫さん)

名木を撮り続けて

小林 政夫

（日本廣告写真家
协会会员）



紅葉前線は一日20数キロといふ、かなりの速度で、日本列島を北から南へ駆け抜けて行く。こんな新聞記事に目を通している時、神戸市公園緑化協会より、神戸の名木「市民の木」の撮影依頼がとびこんで来た。

昭和も終るうとする11月のことです。明ければ平成元年、神戸市制百周年の年でもあり、この変り行く街を幾百年も風雪に耐え、じつと見つめて來た樹々の姿を写真集に收めるには、一本一本の樹との出合いと感動の瞬間を期待して尋ねて行く他に、なんの手だてもありません。

いま名木の写真集の隨想を書く

磨浦での最後の姿を、供養の積りでここに紹介しておきましよう。

木は空氣や土壤、光や影、地下水等の変化には非常に敏感です。昭和4年に發行された「神戸の名木」誌に載っている木の中にも、数点が既に面影を写真で見るのみになってしましました。自然環境のシンボルでもあるこの巨木を守る事が、我々人類が生きて行く大切な要素となるのではないでしょうか。

△×印で黒くボロボロになった地図を出して見ると、名木にまつわる伝説や古老人の楽しい昔話に感銘を受けた事を懐しく思い出します。

一つ寂しく残念に思つた事は、須磨区高倉町第一神明自動車道路南側沿いにそびえていたユーカリの大木が失くなってしまった事です。私が尋ねた時はすでに葉も落ち、幹と枝のみでしたが、須磨の浦を見下して雄々しく立っているユーカリは、どことなく氣品があふれ、近づきがたい感じすら漂います。わせ、幹の色も青空とマッチして本当に写真的でご立派の一言でした。それから数カ月後に、新聞紙面でユーカリの木が伐採された事を知りました。今は原産地オーストラリアに帰ったのかもしれません。

「市民の木」からも外され、名木の写真集にも載らなかつた君の須磨浦での最後の姿を、供養の積りでここに紹介しておきましよう。

木は空氣や土壤、光や影、地下水等の変化には非常に敏感です。昭和4年に發行された「神戸の名木」誌に載っている木の中にも、数点が既に面影を写真で見るのみになってしましました。自然環境のシンボルでもあるこの巨木を守る事が、我々人類が生きて行く大切な要素となるのではないでしょうか。

「樹徳無量」樹の徳は計り知れません。名木の写真集の題字を書かれた綿貫先生は、この様な話をされました。しかし木には足がないのです。どうか此方から逢いに行つてやつて下さい。神が宿る素晴らしい奴等です。

この壁画を六甲アイランドの岸壁から見た人がいつた。お天気によつて、また四季それぞれ、時々刻々変化する自然の中で、絵が「風景」になる。

村上 三郎

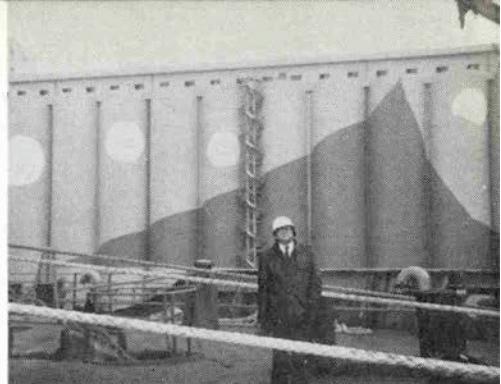
（松陰女子学院
アーチスト）



風景となる壁画

「あさ、日が当たつている時が良いですよ」

昭和産業のサイロに大きい絵を依頼された時、デザイン的な意図



御影浜の自信作 (32M×70M) の前で村上さん

足場が全部とり除かれて壁画が完成した日、六甲アイランドから皆んなで眺めた。空にはいろんな形の白い雲が浮んでいるし、暖冬の海風をうけて、のびのびした時間が満喫した。

昔、芦屋の松林で開かれた具体的野外展(1956年)で、私はロケットのような白い布の円筒の中から、雲の流れを見る「空」というオブジェを作ったことがある。これは自然をとり込んだ新しい試みだったということで、今年の12月に、ローマ国立近代美術館で開催される具体的回顧展に出品する予定になっている。

この「空」の作品と関連なく企画したこのサイロの壁画が、偶然にも、作品と自然との関係、時間と共にある絵など、永い間考え続けていた私自身の問題を、33年ぶりに見直す良いチャンスになったのは不思議に思えてならない。

そして、この機会を与えて下さった方々に心から感謝すると共に、この壁画が神戸港のウォーターフロントで出逢う人々に、どんな風景を提供することが出来るか、楽しみにしている。

恩師との再会に涙

羽多 悅子

(神戸女子短期大学)
助教授・彫刻家



「赤い山と雷 点点……」という題をつけたけれど、青い空、動く雲、背後に横たわる六甲連山、前方には碧い茅渟海、色とりどりの外国船、天を衝くクレーン。周りの景色に調和して、時間と共に変化し続ける風景画ができると思う。然し、円筒状のサイロに平面の原画を拡大するのは大変だった。輪郭を移動する為に足場を何べんも昇り降りする清水建設の人達の現場の作業は、手さぐりの連続で全体をやり直すことになってしまった。だが結果は思いがけない盛り上り、迫り来るような赤い山が出現するハプニングとなつた。これは予定にはない制作の過程に起つた成果だ。

このところ作品と一緒に埼玉美

術館、東京都立美術館(上野)、銀座アネックス等と駆け回つておりました。神戸で少し大型の個展を開きたいと彫塑に必要十分なスペースを探していたところ、武蔵野美大校友会兵庫支部展に選抜作家シリーズを併催しようという企画、第一回に名指し頂いて都合の良過ぎる会場にワクワクしたり、ドキドキしたり。

以前より個展の心積りはあったもののさんちかギャラリーのゴーザインが出てからというもの、もうドラマの幕は開いたの感。制作計画の練り直し、案内状のレイアウト、日頃より私と作品を観ていて下さる御三方に「御言葉」の依頼等から始まって、当然ながら日頃の助教授職も重なり頭も体もパニック寸前の日々を過しております。制作の手順上、空時間が出来三宮界隈のはしごに参加すると「久しぶりだね、忙中閑ありだね」なんて声を聞く始末。忙しさを外に見せない生き方が好みなのに此の度ばかりは周囲に悟られた気配。しかし、いよいよ個展オープと成ると苦しさもどこへやら、観客の日の輝きに、言葉の中に、手答えを確めながらドラマもの。一つ一つ書き連ねたい処だけれどとりあえずは一つを。

その日も次々と訪ねて下さる御

客様に挨拶をくり返しております。 「あのー、判りますか、私が」 顔に視点を合わせて数秒、すぐさま私はその声の方にしがみついておりました。恥しながら。なんと小学校卒業時の恩師でした。なにしろ30数年前の事ですからもうその驚きと喜びは表現のしようもありません。30数年間の出来事が早送りで巻戻され自分でも訳の判らない涙がこぼれて止らず。今日此日の入口に押し込んで下さったのがこの先生だったのです。御姿も流れるとして、温かくて、厳しくて、の当時の印象はそのまま健在でした。この先生の指導のもとに、当時の小学校で5年間に一人と言われていた才女(?)の仲間入り、以後往復4時間、中学校への通学が始まったのです。思い立つて当時の通知表を探してみました。「益々上向の兆しあり、努力

させて下さい」とありました。私の机の前にすわり込んでアレコレ指導する父の姿が思い起され、なるほどこの助言のせいだったかと今頃納得。「何事があつても最後まで黙々と成す子でしたよ。あの御両親も亡くなられましたか。これからは父親の役目もしなければ」と。私、また涙。

「ほんくら」の酒

堀尾 貞治



ヘアーチスト

神戸で生まれ、神戸で育つて今も同じところに生活しているので神戸以外の所を知らない。

1975年から15年かかわりあつている酒房ほんくら(兵庫区中道通7丁目4-12)というのが僕と神戸と酒の唯一の関わりの場所で、この15年の間お酒をごちそうになりつづけてきた。といっても月一回、毎月の最初の土曜日に大阪、尼崎、豊中、須磨、垂水等々、この近在の絵描き仲間が集まり、ほんくらの壁面を利用して作品を飾り、そこで作品を肴に語り合ふことを今も続けている。その晩の酒は格別にうまい、よくまわり心地よさで一杯が進む。たまには呑みすぎてけんかもしない。

この月一回の土一の会を楽しみに作品を作り、調子を整えてのぞむ。何故か行くたびに新しい自分を発見させてもらったのは神戸「ほんくら」と酒の繰り返し返し。この中に僕の創作の源が今もあるようだ。



「ほんくら」に集い、絵を語る



恩師馬場(うまば)久雄さんとギャラリーにて